

第1学年国語科学習指導案

1 単元名 本とともにだちになろう 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

2 指導観

① 児童の実態

本学級の児童は、平仮名読みの学習を終了し、漢字や片仮名の学習も進んで、文字を読むことに慣れてきている。教師による本の読み聞かせや、図書室や集団貸し出し・学級文庫の本を自分で読んだり、絵を見たりすることも大好きである。

これまでの学習では、「おむすびころりん」などの教材を通して、物語のあらすじをとらえたり登場人物の気持ちや場面の様子を想像したりする学習をしてきている。また、読みのめあてをつくり、その答えを自分で考え、学習計画に沿って読み確かめるという学習活動の流れも経験してきている。ひとり読みにおいては、登場人物のしたことに線を引く・学習プリントに言葉を書き抜く・吹き出しに書くなどの活動を取り入れ、自分で考える時間をとってきた。また、交流活動においては、あらすじの事実を読み取ったり、気持ちを読み取ったりする話し合いをしてきた。少しずつ自分の考えを友だちに伝えることができるようになってきているものの、根拠となる言葉や文をはっきりと示しながら発表することや、友だちの考えをしっかりと聞くことまでには至っていない。

② 教材の価値

本単元の目標は、今までの学習で培った読みの力を定着させるとともに、それを生かして児童が主体的に教材を読み進め、読書の楽しさを体感し、読書への親しみをもつことができるようにすることである。

この物語は、主人公「ぼく」が愛犬「エルフ」をいかに愛していたかが、回想の形をとって大きく四つの場面で展開されている。自分とともに育ったエルフを心から愛し、死をもって別れてからも、変わらず続く深い愛情を描いた作品である。そのため、身近な生き物と関わった経験を振り返りながら学習を進めることで、心のつながりをもって動物と関わることのすばらしさを感じることができると考える。

本教材は、時間の経過とともに、エルフの様子や「ぼく」の言動が描かれており、それらが分かる叙述や挿し絵をもとに、場面のあらすじや気持ちについて、想像を広げて読み取らせるのに適したものだと思われる。

③ 指導に当たって

本教材の指導に当たっては、次のような工夫を考えている。

- i 出合う段階では、まず、題名と冒頭・挿し絵をつないで、誰が誰に大すきだと言っているのか、エルフの何が「せかいでいちばんすばらしい」のか、などを想像させながら、読みのめあてをつくる。
- ii 見通す段階では、まず、全文を読み通し、挿し絵と「ぼく」やエルフがしたことをつなぎながら、大まかなあらすじをとらえさせ、読みのめあてに対する自分の考えをもたせる。次に、時間的な順序に目を向けさせながら場面分けを行う。また、よく分からなかったことやもっと知りたいことを出し合い、読み確かめるための学習計画を立てる。
- iii 読み確かめる段階では、1時間の中にひとり読みと交流の2つの活動をスモールステップでくり返しながらか進め、場面ごとの「ぼく」とエルフのしたことや「ぼく」の気持ちを読み確かめていく。ひとり読みの活動では、あらすじを詳しくつかませるために、エルフと「ぼく」のしたことにそれぞれ色線を引かせる。また、「ぼく」の気持ちを読み確かめる時には、心情をとらえやすくするために、「ぼく」の気持ちを吹き出しに書かせる活動を取り入れる。交流活動では、「ぼく」とエルフの様子や「ぼく」の気持ちについて、自ら読み取ったことを話し合わせる。その際には、「ぼく」の気持ちにより近づけるために、動作化や音読を取り入れながら、「ぼく」のエルフに対する愛情を読み確かめていく。
- iv まとめの段階では、読みのめあてに立ち返り、学習を振り返りながら、あらすじや題名「ずうっと、ずっと、大すきだよ」に込められた「ぼく」のエルフに対する思いをまとめる。
- v 教材文の学習後、読書への親しみを深めるために、自分の好きな本の紹介をする。

3 目標

- ◎ 「ぼく」やエルフの様子が分かるところに色線を引いたり、「ぼく」の気持ちを吹き出しに書いたりすることができる。《自ら》
- ◎ 場面の様子や「ぼく」の気持ちについて想像したことを、叙述をもとに伝えることができたり、友だちの考えをしっかりと聞いたりすることができる。《互いに》
- ◎ 老いていくエルフやそのエルフを愛し続ける「ぼく」の様子、また、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」に込められたエルフに対する「ぼく」の気持ちを想像しながら、話の内容を読み取ることができる。《読み》
- ◎ 自分の好きな本を友だちに紹介することができる。《読書》

4 指導計画：11時間（※支援 aはひとり読みに関する支援 bは交流活動に関する支援）

配時	主な学習活動と内容（○）	支援（※）と評価の視点（◆）
1	<p>題名と冒頭から、読みのめあてをつくる。</p> <p>1 題名「ずうっと、ずっと、大すきだよ」について、話し合う。</p> <p>2 冒頭を読む。</p> <p>3 題名と冒頭をつないで、読みのめあてをつくる。</p> <p>○ 題名と冒頭をつなぎ、誰が誰を大すきなのか、エルフのどこが「せかいでいちばんすばらしいのか」を考えて、読みのめあてを考えること。</p> <p>【読みのめあて】 だれが、エルフのどんなことを話すのだろう。</p>	<p>※ 「ずうっと、ずっと」や「大すき」と強調されていることや、誰が誰を大すきなのかに目を向けさせながら、想像を膨らませる。</p> <p>※ 挿し絵とつなげながら範読する。 ◆ 登場人物や場面の様子をとらえることができたか。</p> <p>※ 誰が誰を大すきなのか、エルフのどこが「せかいでいちばんすばらしいのか」を問いかけ、自分なりの読みのめあてをつくらせる。</p> <p>※ 各自のめあてを出し合い、整理しながらクラスの読みのめあてをつくる。</p>
2	<p>全文を読んで、読みのめあてに対する自分なりの考えをつくる。</p> <p>1 読みのめあてをもとに、「ぼく」とエルフがしたことについて、全文を読む。</p> <p>2 「ぼく」とエルフがしたことと挿し絵をつなぎながら、大まかなあらすじをつかむ。</p> <p>3 読みのめあてに対する考えをまとめる。</p> <p>○ 「ぼく」とエルフのしたことを中心に自分なりに考え、話し合うこと。</p> <p>【読みのめあてに対する自分の考え】 「ぼく」はエルフと毎日遊んで、いっしょに大きくなっていった。けれど、時がたち、エルフは年を取って動けなくなった、「ぼく」はとても心配して、毎日「ずうっと、大すきだよ。」と言ってやった。やがて、エルフは死んでしまったけれど、「ぼく」はエルフのことがずうっと、ずっと、大すきだ、ということ話を話した。</p>	<p>※ あらすじの大体をとらえやすくするために、挿し絵とつないだり、説明を加えたりしながら、範読する。</p> <p>※ 挿し絵を順番に並べて、お話のあらすじをつかみやすいようにする。</p> <p>◆ 各場面の「ぼく」とエルフの様子をつないで、自分なりに考えているか。</p>
3	<p>もっとくわしく読みたいところや疑問をもとに、読み確かめの計画を立てる。</p> <p>1 時間の経過を出来事の順序を整理しながら、場面分けをする。</p> <p>2 場面ごとにもっとくわしく読みたいところや疑問を出し合い、学習計画を立てる。</p> <p>○ 読み確かめの見通しをもつこと。</p>	<p>※ 挿し絵とつなげて、エルフの成長の様子などから場面分けを考えさせる。</p> <p>※ 場面ごとの「ぼく」やエルフの様子をおさえて、くわしく読みたいところや疑問を出させる。</p> <p>◆ どのようなことを読み確かめていけばよいかをつかんでいるか。</p>
4	<p>「ぼく」がエルフと一緒に大きくなっていく様子や、その時の「ぼく」の気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 前時を想起し、本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>2 本時場面の音読をする。</p>	<p>※ 掲示物で読みのめあてを振り返り、本時の場面を挿し絵で確かめる。(a-2)</p> <p>※ あらすじの大体をつかませるために、指さしながら、正確に音読させる。(a-1)</p>

	<p>3 「ぼく」とエルフと一緒に大きくなっていく様子を想像し、話し合う。</p> <p>○ 「ぼく」やエルフがしたことに線を引き、仲がよかった様子を読み確かめること。</p> <p>4 エルフに対する「ぼく」の気持ちを考え、話し合う。</p> <p>○ 一緒に寝る時の「ぼく」の気持ちを吹き出しに書き、エルフへの愛情を想像すること。</p>	<p>※ 「ぼく」とエルフがしたことに色線を引かせ、いつも一緒にいたことを想像させる。机間巡視しながら、個別の支援を行う。(a-3, 4)</p> <p>◆ 「ぼく」やエルフがしたことに色線を引くことができたか。</p> <p>※ 「ぼく」がエルフに対して思っていることを吹き出しに書かせ、動作化を取り入れながら話し合わせる。(a-3, b-2)</p> <p>◆ 「ぼく」の気持ちを想像して書くことができたか。</p> <p>◆ 進んで発表したり、友だちの発表をしっかりと聞いたりしているか。</p>
<p>《着目させたい言葉や文》</p> <p>ぼくたちは、<u>いっしょ</u>に大きくなった。</p> <p style="text-align: right;">ぼくは、エルフのあったかいおなかを いつもまくらにするのがすきだった。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ぼくらは、<u>いっしょ</u>にゆめをみた。</p> <p style="text-align: center;">エルフは、ぼくの犬だったんだ。</p>		
5	5 読み確かめたことをまとめる。	※ 家の人に、今日のエルフと「ぼく」のことについて手紙を書かせる。(a-3)
5	<p>小さい頃のエルフの様子や、「ぼく」と「ぼく」の家族の気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 前時を想起し、本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>2 本時場面の音読をする。</p> <p>3 小さい頃のエルフや家族の様子を想像し、話し合う。</p> <p>4 エルフに対する「ぼく」や「ぼく」の家族の気持ちを考え、話し合う。</p>	<p>※ 掲示物で前時場面を振り返り、本時の場面を挿し絵で確かめる。(a-2)</p> <p>※ あらすじの大体をつかませるために、本文を指で追いながら、正確に音読させる。(a-1)</p> <p>※ エルフがしたことに色線を引くことで、小さい頃はどんな犬だったかを考えさせる。机間巡視しながら、個別の支援を行う。(a-3, 4)</p> <p>※ 「ぼく」がエルフに対して思っていることを吹き出しに書かせ、動作化を取り入れながら話し合わせる。(a-3, b-2)</p>
<p>《着目させたい言葉や文》</p> <p>エルフとぼくは、<u>まい日いっしょ</u>にあそんだ。</p> <p>すきならすきと、いってやればよかったのに、だれも、いってやらなかった。いわなくとも、わかるとおもっていたんだね。</p>		
6 本時	<p>年老いたエルフの様子や、それを心配する「ぼく」の気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 前時を想起し、本時の学習問題を確認する。</p> <p>2 本時場面の音読をする。</p> <p>3 年老いたエルフやそれを心配する「ぼく」の様子を想像し、話し合う。</p> <p>4 エルフに対する「ぼく」の気持ちを吹き出しに書き、話し合う。</p>	<p>※ 掲示物で前時場面を振り返り、本時の場面を挿し絵で確かめる。(a-2)</p> <p>※ あらすじの大体をつかませるために、本文を指で追いながら、正確に音読させる。(a-1)</p> <p>※ エルフや「ぼく」がしたことに色線を引かせる。机間巡視しながら、個別の支援を行う。(a-3, 4)</p> <p>※ 「ぼく」がエルフに対して思っていることを挿し絵とつないで想像して吹き出しに書かせ、動作化を取り入れながら話し合わせる。(a-3, b-2)</p>

	<p>《着目させたい言葉や文》 <u>ぼくは、ともしんばいした。</u> <u>ぼくのへやでねなくちゃいけないんだ。</u> <u>～ねるまえには、かならず、「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」</u> <u>って、いってやった。</u></p>	
7	<p>エルフが死んでしまった時の家族の様子や、そのときの「ぼく」の気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 前時を想起し、本時の学習のめあてを確認する。 2 本時場面の音読をする。 3 みんなの様子を想像し、話し合う。 4 エルフに対する「ぼく」の気持ちを吹き出しに書き、話し合う。</p>	<p>※ 家の人に、今日のエルフと「ぼく」のこについて手紙を書かせる。(a-3)</p> <p>※ 掲示物で前時場面を振り返り、本時の学習場面を挿し絵で確かめる。(a-2) ※ あらすじの大体をつかませるために、本文を指で追いながら、正確に音読させる。(a-1) ※ 「ぼく」がしたことに色線を引かせる。机間巡視しながら、個別の支援を行う。(a-3,4) ※ 「ぼく」がエルフに言ったことを吹き出しに書いてから話し合わせる。(a-3,b-2)</p>
8	<p>《着目させたい言葉や文》 ぼくだって、かなしくてたまらなかったけど、<u>いくらかきもちがらくだった。</u> <u>だって、まいばんエルフに、「ずうっと、だいすきだよ。」っていってやっていたからね。</u></p>	<p>エルフが死んでしまった後の様子や、「ぼく」の気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 前時を想起し、本時の学習問題を確認する。 2 音読をする。 3 「ぼく」の様子が分かるところに線を引き、話し合う。 4 エルフに対する「ぼく」の気持ちを吹き出しに書き、話し合う。</p>
9	<p>《着目させたい言葉や文》 もらっても、エルフはきにしないってわかっていたけど、ぼくは、いらないっていった。 なにをかってても、<u>まいばん、きつといてやるんだ。「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」</u>って。</p>	<p>エルフが死んでしまった後の様子や、「ぼく」の気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 全文を読み通す。 2 場面ごとのエルフや「ぼく」の様子・気持ちを振り返り、読みのめあての答えを確かめる。 ○ 読み確かめたことを振り返り、エルフに手紙を書かせることで読みのまとめをすること。</p>

10	自分の好きな本の紹介をする。	
11	1 自分の好きな本を探して、紹介文を書く。	※ 今までに読んだ本の中から友だちに教えたい本を選ばせ、紹介カードを書かせる。
	2 友だちに自分の好きな本の紹介をする。 ○好きな本やおもしろかった本について、あらすじや好きな場면을紹介し合うこと。	※ グループで紹介し合うなど、発表する場の設定を工夫する。 ◆ 友だちに進んで話したり、友だちの発表を楽しんで聞いたりすることができたか。

5 本時 公開授業 I 14:00～14:45 ひとり読みと交流活動

6 本時目標

- ① 時がたって年老いたエルフの様子やそれを心配する「ぼく」の様子が分かるところに線を引いたり、「ぼく」の気持ちを想像して吹き出しに書いたりすることができる。《自ら》
- ② 自分が読み取ったことをもとに、年老いたエルフの様子や「ぼく」の気持ちを、言葉や文を示しながら話すことができる。また、友だちの考えをしっかりと聞くことができる。《互いに》
- ③ 年老いていくエルフやそれを心配している「ぼく」の様子をもとに「ぼく」の気持ちを想像し、場面のあらすじや「ぼく」のエルフに対する愛情を詳しく読み取ることができる。《読み》

7 本時指導に当たって

本時においては、次のような学習指導の工夫を考えている。

- i 前時の学習を掲示物で振り返り、挿し絵で本時場面をおさえた後、学習のめあてを提示する。さらに、声を合わせて本文を指で追いながら音読させることで、場面をしっかりととらえさせる。
- ii 年老いたエルフやそれを心配する「ぼく」の様子をとらえる活動では、学習プリントのエルフがしたことがわかる叙述に青の線、「ぼく」のしたことと言ったことがわかる叙述に赤の線を引かせる。読むことが苦手な子や叙述がつかめない子に対しては、机間巡視しながら一緒に読んだり言葉を確かめたりしながら個別の支援を行う。次に、線を引いたところを発表し合い、エルフや「ぼく」がしたことを言葉や文で確かめたり、想像を広げたりさせながら読み確かめる。発表するときは、学習プリントの行番号を示しながら発表させる。また、エルフと「ぼく」の様子を視覚的にとらえやすくするための板書の工夫を行う。
- iii 「ぼく」のエルフに対する愛情をとらえる活動では、「ぼく」がどんなことを心配しているのかを想像させたり、挿し絵とつなげてエルフにどんなことをしてあげているのかを確かめたりしていく。さらに、「ぼく」の気持ちにせまるために、どんな気持ちで「ずうっと、大すきだよ。」って言ってあげたのかを考え吹き出しに書かせた後、動作化をしながら発表させ、「ぼく」の気持ちについての交流を行う。
- iv 交流後は学習のめあてに立ち返って、読み確かめたことをおうちの人へのお手紙として書きまとめ、発表し合う。

8 展開 (※支援 aはひとり読みに関する支援 bは交流活動に関する支援)

配時	主な学習活動と内容 (○)	支援 (※) と評価の視点 (◆)
3分	1 前時を想起させ、本時の学習のめあてを確認する。	※ 掲示物で前時までのエルフや「ぼく」の様子・気持ちを振り返らせ、本時場面を挿し絵でおさえる。(a-2)
	<p>《学習のめあて》 としをとっていくエルフをしんばいする「ぼく」のきもちをよんで、おはなしをくわしくしよう。</p>	
2分	2 本時場面を音読する。	※ 本時場面をしっかりとつかませるために、指さしをしながら、大きな声で読むように促す。(a-1)
15分	3 エルフや「ぼく」の様子について話し合う。 (1) エルフのしたことを青線で、「ぼく」のし	※ 「エルフは」や「ぼくは」という言葉を探しながら、エルフや「ぼく」の様子が分かる叙述

<p>20分</p>	<p>たこと・言ったことを赤線で引く。</p> <p>○ 年若いしていくエルフの様子やそれを心配する「ぼく」の様子を読み取ること。</p> <p>(2) エルフや「ぼく」の様子を話し合う。</p> <p>○ 自分の考えを進んで話したり、友だちの考えを聞いたりして、二人の様子を読み確かめること。</p> <p>《期待される児童の姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「エルフは」と「ぼくは」という言葉を見付けながら、自分で読んで線を引いている。 ・ 学習プリントの行番号を示しながら話したり、友だちの考えを確かめながら聞いたりしている。 <p>4 「ぼく」のエルフに対する気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 「ともしんばいした」「ぼく」の気持ちを想像して話し合う。</p> <p>○ 何を心配して、エルフにどんなことをしてあげたのかを読み確かめること。</p> <p>(2) なぜ、「エルフは、ぼくのへやでねなくちゃいけない」のかを考えて、話し合う。</p> <p>○ エルフと離れられない「ぼく」の気持ちを読み深めること。</p> <p>(3) 寝る前に必ず「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と言ってやった「ぼく」の気持ちを考えて吹き出しに書き、話し合う。</p> <p>○ 友だちの考えを聞き合い、「ぼく」のエルフに対する愛情を読み深めること。</p> <p>《期待される児童の姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりに想像して吹き出しに書いている。 ・ 進んで自分の考えを話したり、反応しながら友だちの考えを聞いたりしている。 	<p>に色線を引かせる。(a-3)</p> <p>※ 読むのが苦手な子には、一緒に読んだりヒントを与えたりして個別に支援する。(a-4)</p> <p>※ 学習プリントの行番号を示しながらエルフや「ぼく」の様子が分かる叙述を發表したり、確かめながら聞いたりするように促す。(b-2)</p> <p>※ 本時と前時場面の挿し絵のエルフの違いにも目を向けさせ、変化をとらえさせる。(a-3)</p> <p>※ エルフと「ぼく」の様子を視覚的にとらえやすいように整理して板書する。(b-2)</p> <p>◆ エルフや「ぼく」の様子が分かるところに線を引くことができているか。</p> <p>◆ 言葉や文を示して話したり、友だちの考えをしっかりと聞いたりしているか。</p> <p>※ 何を心配しているのか、また、「ぼく」が何をエルフにしてあげたのかを挿し絵ともつなげて、とらえさせる。(a-3)</p> <p>※ 1の場面の「エルフはぼくの犬だったんだ。」という文や小さい頃の様子を振り返り、離れられないになれない思いをとらえさせる。(a-3)</p> <p>※ 「ずうっと」の言葉の意味を考えさせ、「ぼく」はどんな気持ちで「ずうっと」と言ってあげたのかを書かせる。机間巡視し、賞賛したり個別支援をしたりする。(a-3, 4)</p> <p>◆ 心配する気持ちや離れられない「ぼく」の気持ちを想像できたか。</p> <p>◆ 年を取っていくエルフの姿とつないで、吹き出しを書くことができたか。</p> <p>※ 吹き出しに書いたことを、動作化しながら発表させる。(b-2)</p> <p>◆ 進んで話したり、しっかりと聞いたりしているか。</p>
<p>5分</p>	<p>5 本時のめあてに立ち返り、本時のまとめをする。</p>	<p>《着目させたい言葉や文》</p> <p><u>エルフ</u>…どんでんふとっていった。 ← <u>ぼく</u>…せがぐんぐんのびる</p> <p>ねていることがおおくなった。 ←</p> <p>さんぽをいやがるようになった。 ← <u>ともしんばいした。</u> (このままだと体が弱くなる、死んでしまう)</p> <p>「エルフは、としをとったんだよ。」</p> <p>かいだんものぼれなくなった。 ← <u>でも、ぼくのへやでねなくちゃいけないんだ。</u> (ぼくの犬だったんだ。離れられないになれない)</p> <p>ねるまえには、<u>かならず</u>、<u>「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」</u>って行ってやった。 (いつまでも、どうなっても、死んでしまっても、大すきだよ)</p> <p>※ 読み確かめたことを家の人への手紙として書かせ、発表させる。(a-3)</p>